



## さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校  
学校通信第25号(R5. 9. 14)

河東中の玄関である校門付近がきれいです！  
～ 8年生の昼休みボランティア隊が大活躍 ～



河東中の校門へ登っていく坂の周辺がとてもきれいになりました。雑草でおおわれていた花壇の草が抜かれ、坂道の落ち葉もきれいに掃き清められました。

これは、昨日の昼休み、8年生のボランティア隊と先生方によって清掃活動が行われたからです。8年の先生方の呼びかけで、先日のRTMで小学校でやった奉仕活動を中学校でもやろうということで50人をこえる生徒が集まりました。

作業が終わった後、汗だくになりながら「たのしかった～」とつぶやく生徒がいました。

活動後は、直前に降った通り雨も相まってとても清々しい坂道とその周辺になりました。学校の顔である校門前が更に美しくなりました。8年生のみなさん、本当にありがとう！



## 悪者ぞろいの仲良し家族のお話し ～「自責思考」と「他責思考」のちがい～

山間のある村のお話しです。

2軒の家がとなりあわせて暮らしていました。

1軒の家は7人家族です。7人は仲むつまじく、争いごとはひとつとしておこりません。

もう1軒は3人の家族でありながら、毎日けんかが絶えず、みんなおもしろくない毎日です。



あるとき、3人家族の主人が、7人家族の家をたずねて聞きました。

「お前さんの家は家族もおおぜいいるのに、けんかひとつしたことがないと聞く。わしの家はたった3人の家族だというのに、毎日けんかが絶えず、地獄のようなありさまだ。どうしておまえさんの家は、そう仲良くらせるんだ？」

7人家族の主人は、「それは、私どもの家は悪者ばかりの寄り合いですのに、あなた様の家は善い人ばかりのお集りだからなんでしょう」と答えました。

3人家族の主人は納得がいかなかった。

「どうもわかりませんな。7人も悪者がそろってれば、いよいよけんかがたえないはずでしょう。悪者ばかりだからけんかがないというのは、一体どういうわけなんですか？」

「いや、何もむずかしいことはありませんよ。たとえばですね、水がこぼれても、茶わんがわれても、みんなが『それは私が悪かった。いや私が不注意だった。いや私が軽率だった』と、お互いがわれ先に悪者になる競争をします。だから、けんかがおこらないのです。

ですのに、あなたの家ではこれと反対で、なにかまちがいがあると、みなさんが善い人になろうとなすって、『私のせいじゃない。おまえが悪い』とお互いが罪のなすり合いをするのでしょ。テーブルのコップをたおして水がこぼれたとしても、『おまえがこんなところにコップを置くから私がコップを倒したのもしょうがない。こんなところにコップを置くんてばかのしわざだ』と善い人になろうとするのでしょ。

茶わんが棚から落ちて割れても、『もともと棚のつくりが悪いからだ。棚に置いた私に落ち度はない。いったい誰がこんな粗末な棚をつくったんだ？』としっかりたて、自分の罪を逃れようとするにちがいありません。だから、けんかのたえることはありません。

私の家では競って悪者になり、あなたの家では競って善い者になろうとする。

その結果、私の家では争いごとがおこらず、あなたの家では争いごとがたえないのでしょ」

多くの人の中で生活していると、自分にとって不都合なこと・嫌なこと・失敗・敗北といったことはたくさんあるものです。そうした事象に出会ったとき、どう受け止め、反応し対応するかが、自分の成長と社会のいごちのよさを決めます。この話に象徴されるように、自分のせいだとする悪者になるか、人のせいにして善い人になるか。

少し難しい言い方をすれば、「自責の人」になるか「他責の人」になるか。他責の人(善い人)になれば、一時的に自分のせいでないとして安心を得られるでしょ。しかし、その時、人間としての成長は止まり、いごちのわるい社会をつくります。

一方、不都合なことや嫌なこと・失敗を自分で「引き受け」、誰のせいでもなく自分のせいだと心の中に落とし込む勇気のある人は、自然と人間的に成長し、社会をいごちの良いものにまします。それが、「自責の人」(悪者をあえて引き受ける人)です。